

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（2年）

今年度の分析

全体の概要		
国語	全体の正答率は県平均を下回っている。領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」は県平均をやや上回っているが、「読むこと」は大きく下回っており、「言語事項」も大きく下回っている。さらに「書くこと」は大きく下回っており、特に「書くこと」に関して苦手意識を持つ生徒が昨年度よりも増えているようである。	
分析結果・課題把握		
聞話 くす	「話すこと・聞くこと」に関しては県平均をやや上回っている。昨年度は県平均を下回っていたので改善が見られたようである。	改善に向けた具体的取り組み事項 発言するための条件に合わせて文章を準備する力についてはよいようである。今後も「話すこと・聞くこと」の内容を授業で取り入れ、また、CDを用いた聴き取りテストも引き続き行いたい。
書 く	「書くこと」に関しては県平均を大きく下回っている。「書くこと」の領域全体において無解答率が県平均よりも高い傾向があり、このことから「書く」ことに苦手意識を持ち、書かずにあきらめる生徒がいることが考えられる。	内容を要約する力が不十分である。授業で要約に取り組むときに「なぜこのように要約したのか」説明する機会を作り、書くことに対する抵抗感を減らしたい。
読 む	「読む」ことに関しては県平均を大きく下回っている。中でも文章を読み内容を読み取った上で「自分の考えを書く」という問いで正答率が低かった。	様々な文章を読み、その時間のめあてに応じた読み取りができる用に継続して指導を行いたい。また、内容を読んで理解した上で、自分の考えを書くということに多く取り組ませたい。
言語 事項	「言語事項」に関しては県平均を大きく下回っている。その中では漢字の読み、語句に関する知識はやや下回っており、漢字の書きは大きく下回っている。	漢字を丸暗記するのではなく、漢字の意味や成り立ち、熟語になったときの意味にも着目させ、身につけるように意識付けを行う。また、毎日の漢字の課題と小テストを引き続き継続していく。

今年度の分析

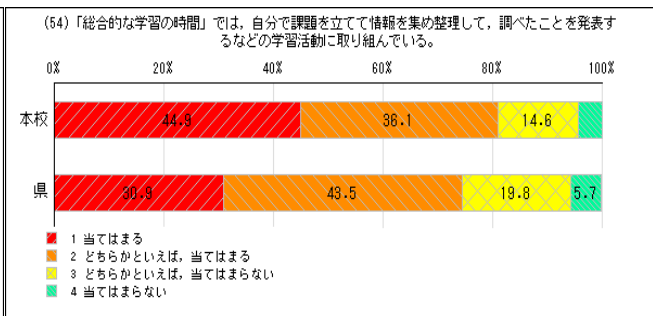
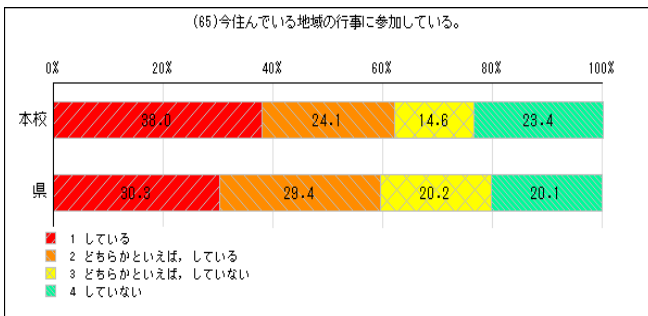
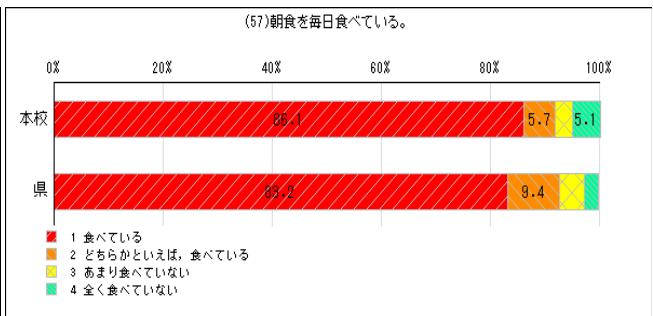
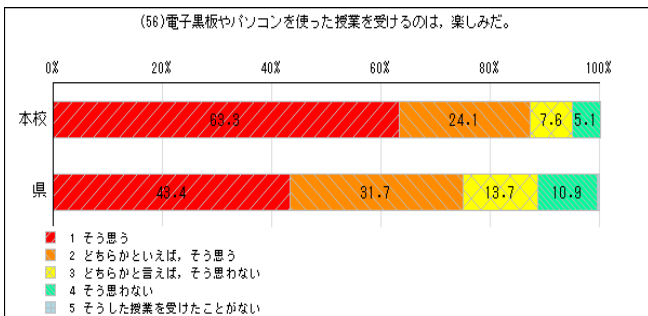
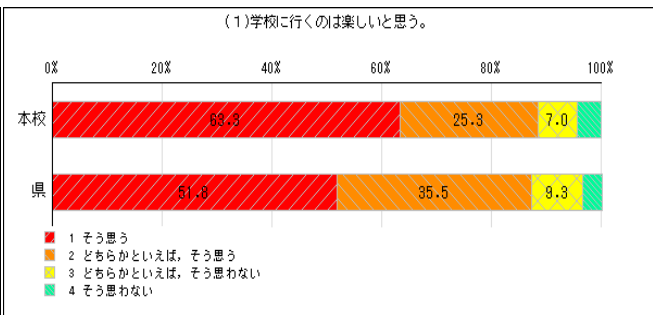
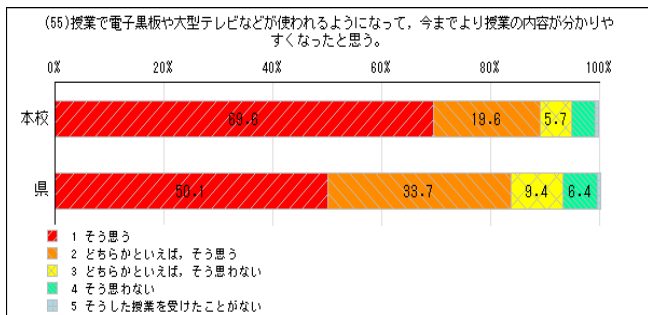
全体の概要		
数学	全体の概要正答率を見ると、要努力の生徒の平均正答率はやや高い。内容・領域別に比較したときは、「数と式」、「図形」、「関数」ともに県平均とほぼ同じである。一方「資料の活用」は県平均よりやや低くなっている。	
分析結果・課題把握		
知識・ 理解	県平均よりやや下回る。特に図形に関する問題の正答率が低かった。	改善に向けた具体的取り組み事項 昨年に引き続き、授業の中で数学的用語や数学的な表現を使って説明する場面を多くする。
技能	県平均とほぼ同じである。基本的な計算技能は身につけている。しかし分数をふくむ方程式を苦手とする生徒の割合が多く、無解答率がやや高くなっている。	学習時は理解ができている内容が多いので、定着を図るために課題などを利用して繰り返し学習できるようにする。
考え方	県平均とほぼ同じである。視覚的にとらえられる（図や表が書かれている）問題の正答率が高いが、文章のみの問題の正答率が低くなっている。また、言葉で説明する問題の無解答率が高くなっている。	グループ活動の機会を増やす。「聞く」の活動だけにとどまらず、書いて表現する場面も設定する必要がある。

全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（2年）

分析と改善に向けた具体的取り組み事項

学習に関しては、授業で電子黒板やパソコンの機器が使われるようになって、今までより授業の内容がわかりやすいとか、授業を受けるのは楽しみだと答えている生徒の割合が、県平均より高い。効果的なICT活用の研究を市全体で研究している成果と考えられる。「学校へ行くのは楽しい」と答えた生徒は63.3%と県平均の51.8%を大きく上回る。また、地域の行事に参加していると答えた生徒も大きく上回る。ボランティアや郷土の行事に積極的に参加する気持ちを持っている。昨年「総合的な学習の時間」では、福祉体験を行った。生徒達は積極的に参加し活動したので、達成感を感じている生徒が多かったからだと考えられる。

【 数値が特に高かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

平日の学習時間が2時間以上していると答えた生徒は17.7%で県平均の26.6%を大いに下回る。反面、平日に1日当たり2時間以上メールをしている割合が29.7%で県平均よりも6.9%多く、また、2時間以上テレビゲームをしている割合が38.7%で県平均よりも10%多い。以上の結果から、家庭学習をする時間を十分に確保できていない生徒が少なからず見られる。SNSと家庭学習をどう考えるか、使い方の制約やスマホに対する弊害を知らせるなど、講演会などで啓発していく必要がある。学年懇談会においてもスマホの取り扱い方に関することについて考える機会を持った。今後も学校と家庭の協力体制を強化していきたい。

【 数値が特に低かった項目 】

